

# 会議議事録

会議名	平成30年度 第1回教育課程編成委員会
開催日時	平成30年6月19日(火) 14:00~16:00
会場	中央動物専門学校 1915教室
参加者	<p>委員 坂本 敏、佐藤 洋子、渡来 純如、小澤 琢爾、笹井 利浩、 高橋 三行、齋藤 栄輝、藤川 進、宮澤 厚(欠席:久保 純)</p> <p>陪席者 関野 格至、齊藤 利章、臼井 明子、原 太一</p> <p style="text-align: right;">以上 13名</p>
会議録	<p>1. 開会挨拶 座長の坂本敏校長から開会の挨拶を行い、教育課程編成委員会が開会した。</p> <p>2. 職業実践専門課程 認定状況説明 坂本座長から「職業実践専門課程」の認定状況について説明があった。 ・専門学校(専修学校専門課程)における「職業実践専門課程」の認定等(平成29年度)について(配布資料参照)</p> <p>3. 運営報告・運営計画について 坂本座長と佐藤洋子委員から平成29年度運営報告及び平成30年度運営計画の説明があった。</p> <p>(1) 平成29年度運営報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校運営</li> <li>・教学運営</li> <li>・動物管理運営</li> <li>・施設・設備の改善・整備</li> <li>・広報活動の基本方針と成果等</li> </ul> <p>(2) 平成30年度運営計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・建学の目的と教育方針</li> <li>・運営方針及び運営重点項目</li> <li>・教育指導内容及び教育運営の充実</li> <li>・教育設備機器等の整備</li> <li>・就職指導体制</li> <li>・広報計画等</li> </ul>

## 6. 具体的検討

平成29年度運営報告や各学科の教育運営に対して必要な検討を行い、今後更に改善を要する案件や意見が挙げられた。主なものは次の通り。

### (1) 愛犬美容関連科（愛犬美容科・愛犬美容研究科）

- ・ 学生数については H29 年度と比較して H30 年度は緩やかに持ち直している。他の専門学校も学生募集に苦戦しているが、本校は具体的にどのようなことを対策として講じてきたか。

⇒ 2 年前の学生数減の要因としては近隣に同分野校が設立されたことと、景気回復により進学せず就職する高校生が増えたことと分析した。対策ということではなく、美容科の魅力を訴求していくことが重要。体験入学等のイベントでは、内容やスケジュールなど様々な改善を重ねながら実施してきたことが、学生募集の成果に繋がっている。

- ・ J K C の犬の登録件数の減少が続いており、ペット系企業も危機感を感じている。ペット業界を目指す学生の確保においても、相当の努力が必要である。
- ・ 業界全体が厳しい状況。生体価格、物販価格が高騰した上、ハウスメーカーや食品メーカーまでもがペット業界に参入してきている。また、個人輸入も増加傾向にあり、価格、商品の流れも変化してきている。
- ・ 業界では、トリマー不足が継続して問題となっており、価格を上げて、また、オプションサービスの種類も増やして、美容業界を盛り上げようという流れがでてきている。それには、トリマー個々のパフォーマンスやスキルレベルを上げ、接客力、技術力、個性をトータル的に考えることが必要。
- ・ 昨今のお客様の傾向としては、高い生体を買って、自分の犬を預けるトリマーを選ぶようになってきている。客単価は上がるも、頭数は増えていない。生体販売、美容も物販も危機感を持って取り組まざるを得ない。スタッフ力が重要視されており、トータルサポートができるトリマーが求められてきている。トリマーはヒューマングレードを上げないといけない。
- ・ 契約社員の正社員化など、待遇面を改善したが人件費等のコストが上がり、その分、売り上げを上げるためにトリミング価格も値上げしていかなければならない。それに見合ったより高いサービスを提供し、多くの顧客の信頼を獲得することが非常に重要になってくる。接客においてクオリティを上げる、ブランド力をつくることが急務。
- ・ トリマー業界の厳しさ、急速な変化の状況を事前に学生に特別授業等で教える機会を設けてほしい。

(2) 動物看護関連科 (動物看護科・動物看護研究科)

- ・動物医療業界も往診は多いが、今後、動物病院でも、遠隔地での診察が可能になるオンライン診察の導入が見込まれる。そのため、動物看護師がソフトを扱えるような教育やシステムの構築を検討していただきたい。
  - ・他の専門学校の学生が、長期休暇中ではなく、今の時期に就職研修に来院したが、本校の学生はいつからというのはあるのか。
- ⇒本校は学校でしっかり教育し、夏期休暇期間等、授業のない日に集中して研修に出している。他校で実技スタイルが学内にない学校は1年で座学、2年で企業研修(実習)に出していると思われる。
- ・地方に関わらず首都圏でも動物看護師が不足している。
  - ・動物看護師の基礎力、会話力不足により、話が伝わらないケースが散見されている。動物病院という特殊な環境の中でのビジネスマナーの習得を教育の中で、より強化することを検討していただきたい。

(3) 動物共生関連科 (動物共生研究科・動物共生総合科)

- ・美容、看護に比べ明確な概念がでていない。カリキュラムを見ても、広範囲なようで広範囲ではない。動物共生関連科こそ、多様な教養をつけるカリキュラムを組んでいかないと厳しいと思われる。
- ・トリマーの学校を出て、就職したが数年で離職し、その後トリマーの職に就かない者が多い。
- ・企業は即戦力になる人材を求めている。
- ・全体的に学生はサービス業であるという意識が余りにも低いと感じる。また、サービス業が何であるかを明確に答えられない者もいる。
- ・多様な学習、多様なカリキュラム、人間の幅を持たせるような科目の作成を切望する。
- ・ビジネスマナーについては、カリキュラムの中で、しっかり取り組まれていると感じられる。

(4) 各学科共通

- ・ペット業界は給与が安い、労働時間が長い、休みが少ない、福利厚生が充実していないという悪いイメージを払拭し、業界を上げて一般企業に近づく努力をすべき。
  - ・日本の少子化は現在も進行している。留学生、とくにアジア系の留学生は、日本の商品、技術、接客技術に憧憬の念を抱いていると思われることから、留学生募集への注力も得策であると考える。
- ⇒法人内に留学生センターを設置し、中国、韓国、台湾に紹介事務所を設置している。直接留学生も募集しているが、コミッション料が発生するためコストがかかる。さらに、動物系分野は就労ビザがおりない

ため、ペット系企業に正社員で雇用されても、就労ビザを取得できないケースもあった。経済的に恵まれている留学生で、起業し経営管理ビザを取得した者もいるが、稀なケースである。

- ・資格について、企業側は特に拘りはない。何を持っているかではなく、何ができるかを重要視している。
- ・運営報告の中で、受験者ゼロの資格は載せずともよい。

#### 7. 次回委員会開催連絡

次回の委員会を、平成31年1月15日（火）14:00~16:00とする。  
詳細は後日連絡。

#### 8. 閉会

座長の坂本敏校長から閉会の挨拶があり、教育課程編成委員会が閉会した。

#### 【配布資料】

- ・教育課程編成委員会 平成30年度第1回委員会 議事次第
- ・平成29年度運営報告
- ・平成30年度運営計画
- ・学則（平成29年4月～）
- ・学習の手引き（履修便覧）2018年度
- ・教師・保護者用ガイドブック2019
- ・学校案内書2019
- ・職業実践専門課程関連資料

以上